

わがチラ裏ブログより転載

<http://www.ma-2.com/blog1/>

ふちんかん

淡路島に行く うずしお・断層 20150221

学年末試験期間の土曜日。朝一番に車のコーティングのメンテナンスを行い、そのままお出かけ。

行き先は淡路島。目的はうずしおの見学と震災記念公園の訪問だ。どちらも家族旅行で行ったことのあるところだが、もう10年ほど前になるので、新しい発見もあるかもしれない。

まず、「うずしお」について。

うずしおは、太平洋側と瀬戸内側とを結ぶ鳴門海峡の潮流によって生じるものだ。潮流が生じる理由は、明石海峡を通過して淡路島をぐるりと回ってくる満潮が、すでに干潮になっている太平洋側に流れ込むことで生じる（干潮も同じ）。だからうずしおの観察は一日の潮位差の大きい大潮の日（新月や満月の前後）を狙うことが大事である。また一日に4回ある時刻的なピークも大事である。さらに観潮船の職員の方に聞いた話では天候も重要で、天候が悪い日は波なのか渦なのか分からなくなるらしい。この日は前日が旧暦の一日（つまり新月）なので、渦潮の観察に適した大潮である。この日のピークタイムは8時前と14時前であり、お昼過ぎを目指して行くことにする。もちろん天気も良好。ということで、この日はすべての条件を満たした観潮日和である。



うずしお観察のポイント

大潮・時間帯・天候

10時過ぎに宝塚インターに入り、中国道・山陽道・徳島道と進む。明石海峡大橋までのルートは二通りあるが、阪神高速北神戸線を通るより山陽道を通る方が若干安い。ちなみに明石海峡大橋は現在通行料が900円にディスカウントされている。

1 時間半ほどで淡路島の南端・淡路島南インター。



ほどなく道の駅うずしおに到着。
 ～全国ご当地バーガーフェスタ 1 位グランプリ受賞～の「淡路島オニオンビーフバーガー」を食べ、うずしお科学館へ。500 円という入館料ほど学ぶものが無いのは残念。3 D めがねをかけてみる映画も 1 0 年前と全く同じだった。鳴門海峡の地形と潮流を再現した立体模型も変わらないが、これは唯一、一見の価値はあるものと言えよう。

その後、うずしお観潮クルージング船ヘリオスの乗り場へ。これも車で 5 分ほどで到着。



うずしお観察の観潮船は淡路島側と鳴門側で何社かあるが、このヘリオスは最も小規模で、定員 24 人である。1 0 年前に乗ったのも同じで、今回もここにしたのは小さな船の方が小回りが利き、うずしおに接近できるからだ。ただ客が集まらなると出港しないのは、6 月に行った香住の遊覧船と同じ。今回はあ

らかじめ電話しておいたので、1 3 時に出港の便があることが分かり、それにあわせて行動を決めた。本当は灘黒岩水仙郷に行ってから 1 4 時くらいの船を予定していたのだが、その時刻に他の予約がないとのことで水仙見物の方をあきらめた。

伊弉の港に行ってみると先に二人、あとから二人、そして私と計 5 名だけの参加であった。一人 1500 円である。一人でも 4000 円でチャーターできるらしいので、まあペイはできているのだろうけど…。

さて、港を出て 5 分ほどで大鳴門橋の下へ到着。前日は大荒れだったらしいが、この日はべた風。小さな船だが支えなしで立ってられるほどだ。さすがに渦に近づくと手すりを持たないと怖かったが、撮影は全く問題なくできた。





瀬戸内側から太平洋側へ流れる南流の時間帯である。右の写真では手前の波立っている部分が太平洋側で干潮、奥の暗い部分が瀬戸内側で満潮、目で見て分かるくらい潮位に差がある。この差が時速20キロの潮流となり、その流れと周囲の動かない水との摩擦で渦ができるのだそうだ。



約30分のクルージングであった。これで1500円は安いと思う。

その後は北淡町の震災記念公園へ。

こちらでもできた頃に行って以来、久々である。

断層によって敷地内にひびが入ったコンクリートづくりの住宅が公開されていたり、震度7体験コーナーができていたり、こちらは展示内容が更新されていて、けっこう時間をかけて見学した。

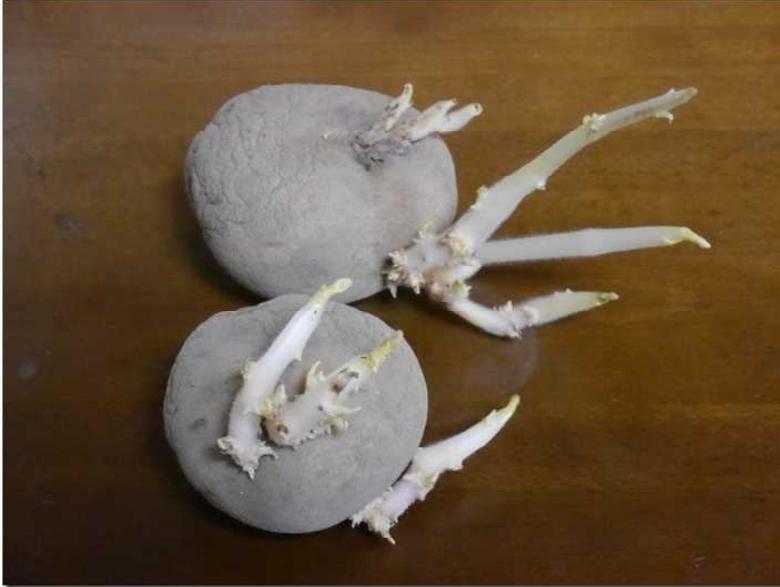


最後に家族へのお土産を購入し、レストランで「淡路島牛丼」を食べた。淡路島牛丼は淡路牛・淡路島タマネギ・淡路米と地元食材を使った最近売り出し中のメニューである。昼食の淡路島オニオンバーガーもこの淡路島牛丼も、当然ながら注文してから作るので時間がかかる。ハンバーガーや牛丼というとファストフードの典型であり、安い早いというのが当たり前のように感じていただけに、それなりの代価を払い、注文してから「待つ」ということに、改めて「これが普通である」ということに気づかされた。





✿ 放置ジャガイモから芽が出た 20150228



2ヶ月以上前に箱買いして、残っていたジャガイモから芽が出ていた。

ジャガイモやサトイモは「茎」にあたる部分が食用部であり、サツマイモは「根」にあたる部分、タマネギやユリは「葉」にあたる部分が食用部である。

NHKの教育用コンテンツで、サツマイモが生長する過程のものがある。
http://www2.nhk.or.jp/school/movie/clip.cgi?das_id=D0005401311_00000&p=box

以前の記事「放置サツマイモから芽が出た」も参照されたし。
<http://www.ma-2.com/blog1/?p=2502>